

国東市いじめ・不登校・貧困対策アクションプラン(令和3年度版)

1 いじめ・不登校・貧困の現状等

ア いじめ・不登校の現状

(いじめ認知件数及び解消率等) (R1)

いじめ	小学校				中学校			
	件数	1000人 当たり	いじめ0 の校数	解消数 解消率	件数	1000人 当たり	いじめ0 の校数	解消数 解消率
国東市	201	190.5	0	166 82.5%	32	58.7	0	19 59.3%

(不登校児童生徒数及び1000人当たりの不登校児童生徒の出現率)

不登校		H27年度		H28年度		H29年度		H30年度		R1年度		R2年度(12月末)	
		人数	1000人 当たり	人数	1000人 当たり	人数	1000人 当たり	人数	1000人 当たり	人数	1000人 当たり	人数	1000人 当たり
小学校	国	-	4.2人	-	4.7人	-	5.4人	-	7.0人	-	8.3人		
	県	308	5.2人	282	4.8人	368	6.2人	437	7.3人	558	9.4人		
	国東市	4	3.3人	3	2.6人	1	0.9人	3	2.7人	4	3.6人	6	5.7人
中学校	国	-	28.3人	-	30.1人	-	32.5人	-	36.5人	-	39.4人		
	県	865	28.9人	932	31.2人	975	33.6人	1162	39.1人	1285	43.5人		
	国東市	12	18人	16	25.4人	11	18.2人	8	13.4人	9	16.1人	8	14.7人

イ いじめ・不登校・貧困の分析

<いじめ>
 ・認知件数が大幅に減った。(H30 小:426件 中:44件)大きい学校ほど認知件数が減っている。しかし、児童生徒の些細な変化も見逃さないという姿勢で、各学校がいじめの積極的認知に取り組んでいる。
 ・いじめ解消率は、小学校はやや下がり、中学校は大幅に下がった。(H30 全体:88.9% 小:89.0% 中:88.6%)解決の難しいケースが増えてきている。
 <不登校>
 ・小・中学校ともに、1000人あたりの人数は県平均よりも低い。
 ・スタートプログラムを中心とした、中学校の環境への適応に向けた丁寧な取組及び小中連携が充実してきている。
 <貧困>
 ・「貧困のため不登校」である児童生徒はいないが、無関係ではないケースも見られる。
 ・小学校「学びの教室」、中学校「学び塾」に参加呼びかけをしている。

ウ いじめ・不登校・貧困の課題

<いじめ>
 ◆認知件数に学校間格差が見られる。
 ◆小学校からの人間関係が修復できないまま中学校にあがっているケースが見られる。
 <不登校>
 ◆学校以外とのつながりがないケースがあり、学校とのつながりも薄い状況がある。
 ◆みんなが参加できわかる授業を一層推進する。(新大分スタンダード、授業のユニバーサルデザイン化)
 <貧困>
 ◆家庭状況が貧困かどうかについての把握は十分ではない。(要保護・準要保護家庭は全体の8.1%)

2 令和3年度の市町村の目標及び取組

ア 不登校児童生徒数及び新規者数の目標値(令和3年度末値)

	在籍者数	不登校者数	内新規者数	1000人当たりの不登校者数
全小学校	1010	4	0	3.9人
全中学校	547	6	0	10.9人

イ いじめ解消率の目標(令和3年度末値)

	解消率	
全小学校	90.0%	R2:1学期 41.4%
全中学校	90.0%	R2:1学期 25.0%

ウ いじめ・不登校・貧困対策の取組(令和3年度)

- <計画・組織>
 ○ 各学校や市町村教委における教育相談体制の確立
 ・各学校の「児童生徒支援対策プラン」の作成・見直し・改善
 ・中学校1年生の適応促進に向けた組織的取組(小中連携会議・校区内小6の交流会等)
 ・スクールロイヤーによるいじめ予防授業・教職員研修の計画的な実施
- <未然防止「あったかハート」>
 ○ 短時間で継続的に行う「人間関係づくりプログラム」の推進
 ・市教委主催の「人間関係づくりプログラム」研修会の実施
 ○ 全員参加の「分かる」授業の促進
- <早期発見「ほっとハート」>
 ○ いじめ見逃しゼロ、新規の不登校を生まない教育相談体制の構築
 ・市内全学校の欠席把握と早期支援対応の取組強化
 ・ハイパーQU等のアンケート調査結果の分析と結果の活用
- <解決支援「にっこりハート」>
 ○ 各校の教育相談コーディネーターの支援体制の構築
 ・校長会や教育相談コーディネーター研修会等において説明
 ○ 経済的な困難を抱える児童生徒の学習支援の推進
 ・要保護・準要保護児童生徒の学力把握と学習支援【新】

3 地域児童生徒支援コーディネーターの活用計画(拠点校)

ア 地域児童生徒支援コーディネーター配置希望校(令和3年度)

拠点校名
国東市立国東中学校(生徒数186名)

選定の理由

- ◆地域児童生徒支援コーディネーター配置の3年目である。
- ◆本校と教育支援センターが近いこと、関係機関とも連携がとりにやすい。
- ◆国東市内では生徒数の多い学校であり、教育相談体制の取組効果を広げやすい。
- ◆小中連携配置のSCを国東中に配置しており、SCを含め、小中連携した取組を行うのに適している。

イ 不登校児童生徒数及び出現率の目標値(令和3年度末値)(拠点校)

学校名	在籍者数	いじめ解消率	不登校者数
国東市立国東中学校	186	90.0%	1

ウ 拠点校での活用内容(地域モデルの構築)

- <計画・組織>
 ◇ 校内「児童生徒支援対策プラン」の作成・改善
 ・プランの作成と定期的な見直し・改善
 ◇ SC.SSWや福祉部局等が参画したいじめ・不登校対策委員会を構築
 ・SC・SSWの有効活用に向けた日程調整等のコーディネート、福祉課との連携
- <未然防止「あったかハート」>
 ◇ 短時間で継続的に行う「人間関係づくりプログラム」の推進
 ・「人間関係づくりプログラム」の実践推進(全学年、原則週1回以上)(「毎週水曜日学活時」等、具体的に計画し、設定する)
 ◇ 生徒指導の3機能を意識した「分かる授業」の展開
 ・研究主任と連携した授業改善の推進(新大分スタンダード、UDの授業)
 ◇ 校区内小・中学校との効果的な連携支援の推進
 ・校区内小学校の児童の観察と情報共有、スタートプログラムの工夫・改善
- <早期発見「ほっとハート」>
 ◇ いじめ・不登校の早期発見のための組織体制の構築
 ・学年部との連携強化と組織的・計画的な早期対応(SC・SSWとの連携含む)
 ・「児童生徒支援シート」等の作成と活用(小中連携に活用等)【新】
- <解決支援「にっこりハート」>
 ◇ 児童生徒・保護者の思いに寄り添ったいじめ解消や不登校支援の推進
 ・不登校生徒や相談室登校生徒への支援と家庭訪問、オンラインでの学習支援等【新】
 ・教育支援センタースタッフ会議、SC連絡協議会への参加

エ 拠点校での年間計画

月	事業内容
4	教職員研修①(不登校の分析とスタートプログラム、アプローチプログラムの説明・共通理解)
5	小中連携会議①
6	教職員研修②(発達障がい)
7	QU情報共有会議
8	小中連携会議②
9	8月末～長期休業明け生徒指導
10	小中連携会議③(支援が必要な児童の観察等)
11	教職員研修③(いじめ防止対策推進法等)
12	QU情報共有会議
1	長期休業明け生徒指導、小中連携会議④
2	教職員研修④(ケース会議)
3	小中連携会議⑤(情報交換)

4 地域児童生徒支援コーディネーターの活用計画(教育委員会)

ア 教育委員会での活用内容

地域児童生徒支援コーディネーターの活動日数(標準)
 市教委等での活動=週2日(教育支援センター・学校訪問等)
 拠点校での活動=週3日〔授業時間数は週あたり原則6時間以内〕

<計画・組織>

- ◇ 地域の小・中学校の定期的な訪問による指導・助言
 ・要請に応じた学校訪問とケース会議等への参加
- ◇ 市町村及び各学校の「児童生徒支援対策プラン」作成・改善
 ・学校の「児童生徒支援対策プラン」の作成・改善
- ◇ 市町村及び各学校のいじめ・不登校対策委員会の活性化の推進
 ・拠点校の効果的な取組を学校訪問や研修会で普及

<未然防止「あったかハート」>

- ◇ 各学校における短時間で継続的に行う「人間関係づくりプログラム」の普及啓発
 ・短時間でできる「人間関係づくりプログラム」の取組を各学校へ周知【新】
- ◇ 地域の教育相談コーディネーター研修会での講師、助言者としての活用
 ・自校での「人間関係づくりプログラム」の実践報告
- ◇ 「児童生徒支援シート」や「スタートプログラム」等を活用した小・中学校の連携
 ・「児童生徒支援シート」の作成と有効活用の推進
 ・「スタートプログラム・アプローチプログラム」等の作成と活用

<早期発見「ほっとハート」>

- ◇ 市町村初期欠席対応システム構築の推進
 3日連続欠席の児童生徒の把握
 各学校のいじめ状況・欠席データの集計分析
- ◇ 各種アンケート調査の実施・分析と教育相談体制の充実
 ・自校研修や生徒指導担当者会等でのハイパーQUの説明や取組等の紹介

<解決支援「にっこりハート」>

- ◇ 教育委員会と福祉部局、民間組織(必要に応じて)等が連携した不登校対策推進会議への参画
 ・教育支援センターや民間団体と連携したいじめ・不登校支援の拡大
 ・SC・SSW等と連携したケース会議への参加
 ・中高の連携
- ◇ 不登校児童生徒を、教育支援センターや学校とオンラインでつなぐ環境づくり【新】
 ・不登校児童生徒の学びを保障するため、学校の授業にオンラインで参加できる環境づくり

イ 教育委員会での年間計画

月	事業内容
定期的活動	教育支援センタースタッフ会議(毎月1回・福祉課含む) 不登校生徒への支援 (要請に応じて)各学校の対策委員会等へ出席
4	生徒指導主事・生活指導主任研修会① スタートプログラム・アプローチプログラムの取組確認
5	SC連絡協議会(福祉課・SSW含む) 教育支援センター巡回訪問
6	令和2年度問題行動等調査の分析 生徒指導主事・生活指導主任研修会②教育相談コーディネーター研修
7	1学期市内いじめ・不登校状況の分析 SC連絡協議会(福祉課・SSW含む)
8	教育支援センターとの連携による不登校生徒への支援 中学校区毎に小学校6年の交流・小中連携
9	長期休業明けのいじめ・不登校状況の分析
10	半期市内いじめ・不登校状況の分析
11	各学校のいじめ・不登校対策プランの検証・改善
12	2学期市内いじめ・不登校状況の分析
1	長期休業明けのいじめ・不登校状況の分析
2	次年度スタートプログラム・アプローチプログラムの協議 生徒指導主事・生活指導主任研修会③人間関係づくりプログラム研修
3	令和2年度問題行動等調査の分析 小中連携会議

5 中学校学習支援加配について

- ◆経済的困窮世帯の生徒支援という目的に則った中学校学習支援加配教員の活用について